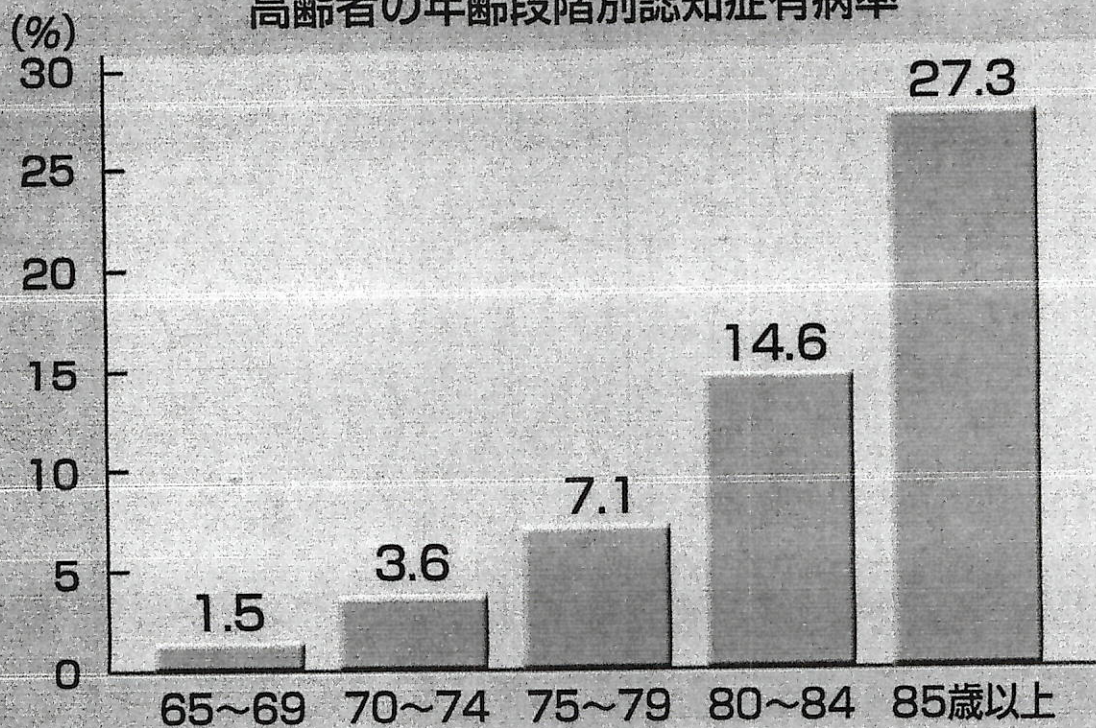


認知症になっても
住み慣れた地域で
安心して暮らして
いくために

放送大学教養学部
NPO法人 認知症フレンドシップクラブ
井出 訓

認知症を有する高齢者の割合

高齢者の年齢段階別認知症有病率

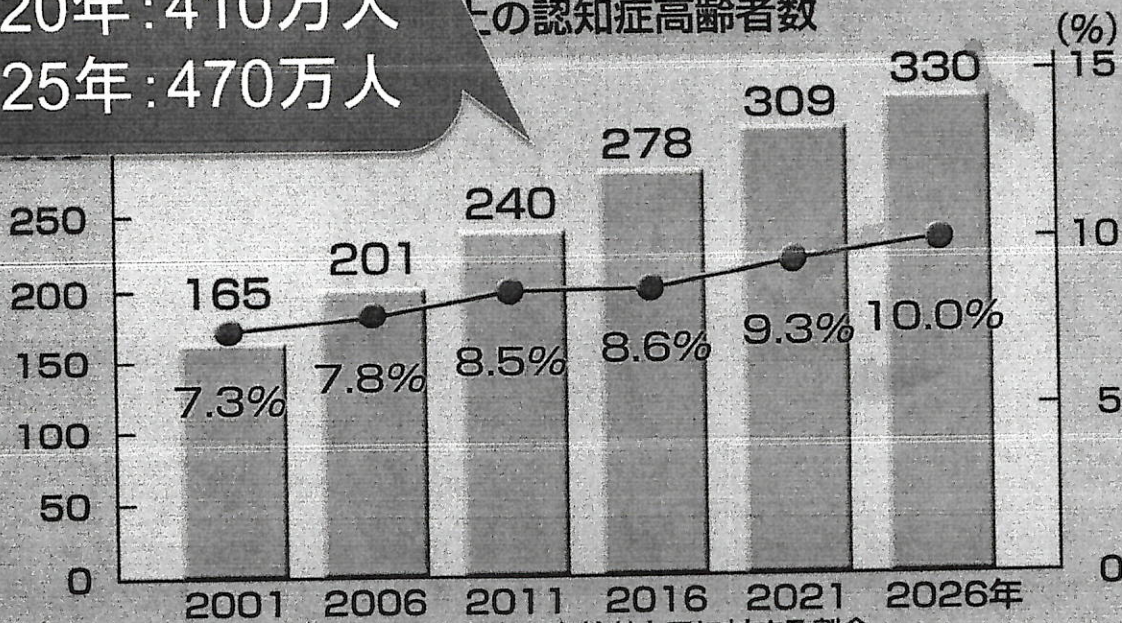


「老人保健福祉計画策定に当たっての痴呆老人の把握方法等について」
平成4年2月老計第29号、老健14号より

2012年:305万人
 2015年:345万人
 2020年:410万人
 2025年:470万人

る高齢者の将来推計数

上の認知症高齢者数

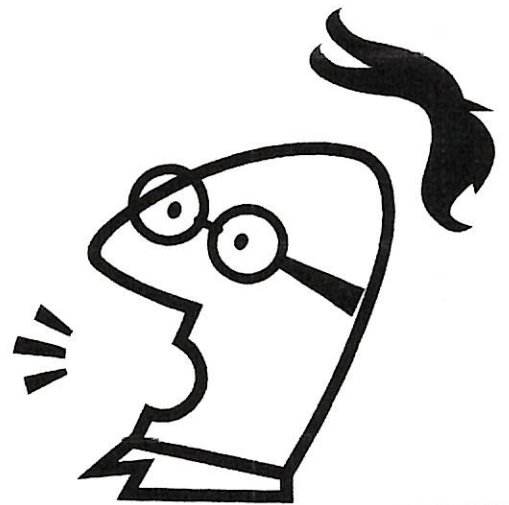


*%は65歳以上の高齢者人口に対する割合

平成9年1月の「日本の将来推計人口」をもとに、平成13年に大塚が推計したもの
 (大塚俊男:日本における痴呆性老人数の将来推計.平成9年の「日本の将来推計人口」をもとに.日精協誌 20:65-69, 2001)

認知機能とは何か？

- 認知機能とは、感覚器官から取り入れた情報と、すでに頭の中にある情報の両方を統合する脳の思考過程のことをいう。



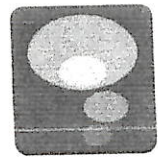
認知症って？

- 発達に伴い獲得された知的な能力により、普通に生活できていた人が、その後に起こった何らかの慢性的な脳の障害によって、自立した生活に支障が出るほどに、知的な機能が低下した状態

認知症というのは、いろいろな原因で脳の細胞が死んじゃったり、働きが悪くなったりしてさまざまな障害が起こって、生活するうえで支障が出ている状態

- **認知症の要因:認知症の原因疾患**
 - ・ **アルツハイマー病**
 - ・ **脳血管障害**
 - ・ **レビー小体病**
 - ・ **前頭側頭葉変性症**
 - ・ **クロイツフェルト・ヤコブ病**
 - ・ **慢性硬膜下血腫**
 - ・ **仮性認知症**

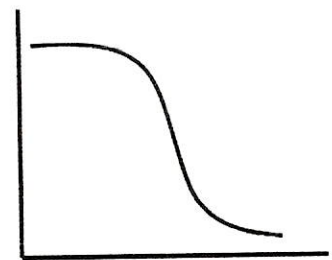
アルツハイマー型認知症



- 脳の神経細胞の喪失、原因不明
- 特徴: 進行性、記憶、見当識、計算、判断能力などが徐々に低下し、次第に身の回りのことができなくなる。

- 診断: 脳萎縮 (CT, MRI)

臨床症状

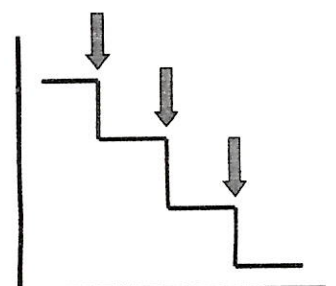


脳血管性認知症

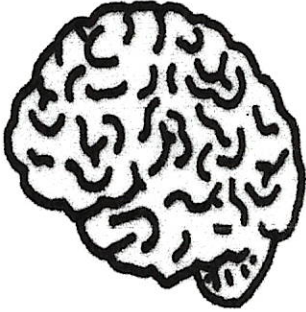


- 脳梗塞や脳出血等により引き起こされる脳神経細胞の壊死が要因
- 特徴: まだらボケ、日による変動がある
麻痺や失語症を伴うことも多い
感情失禁

- 診断: 脳梗塞
出血巣 (CT, MRI)
臨床症状



認知症って？ 脳の変化



健康な脳

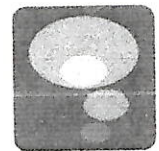


脳の細胞がびまん性に死んで脳が萎縮する
(アルツハイマー病などの変性疾患)



血管が詰まって一部の細胞が死ぬ
(脳血管性認知症)

レビー小体型認知症



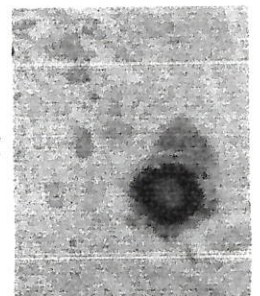
- 脳内にレビー小体という異常な細胞内蓄積物が点々と見つかる。原因不明
- 特徴：発病初期から身体の動きが緩慢なる
パーキンソン症状、幻視、幻覚を訴える。
原因不明の失神発作も見られる。
日中の過度の傾眠とレム睡眠行動障害

- 診断：他の認知症疾患に比べ脳波の異常が際立っている。

SPECT(脳血流状態)

レビー小体の主成分はα-シヌクレイン(主として神経組織内にみられる機能不明のタンパク質)

α-シヌクレイン免疫染色

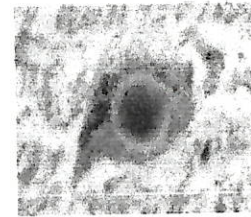
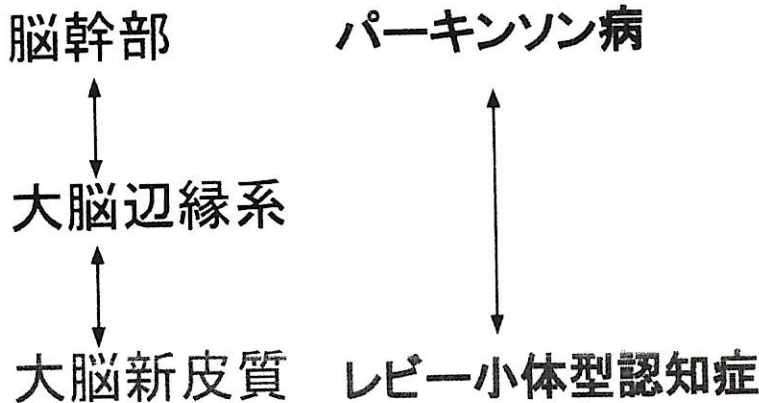


レビー小体病



同じ病理を持っている

- パーキンソン病 ———— 中脳の黒質にレビー小体
- レビー小体型認知症 ———— 大脳の皮質にレビー小体



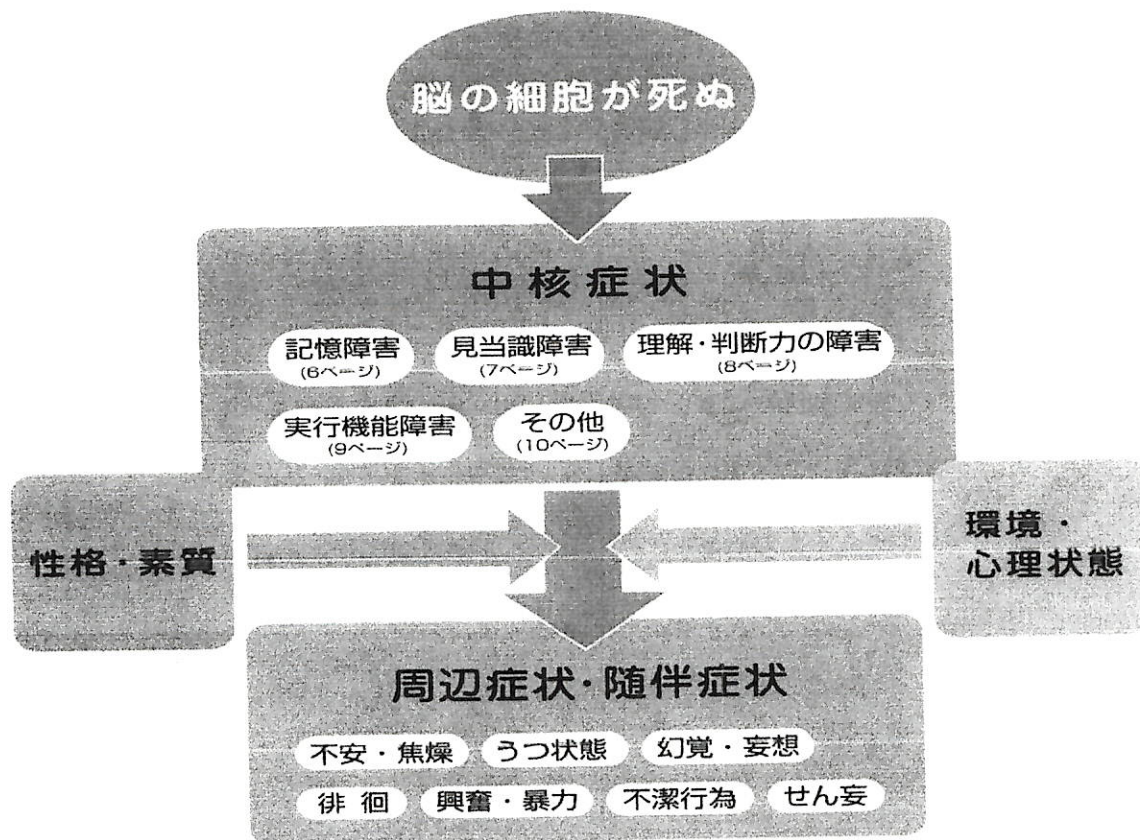
前頭側頭葉型認知症



- 前頭葉から側頭葉にかけて集中的に脳が萎縮していく病気。原因不明
- 特徴：発病のピークは50-60代にあり、いわゆる若年性認知症の一種であるが、高齢者にも発病する。抑制の効かない行動、社会のルールや常識的な規範を無視したようにみえる行動

診断：脳萎縮（CT, MRI）、臨床症状

認知症って？ 症状



認知症の症状



＜中核症状＞: 脳の器質的病変によって起こる非可逆的な症状であり、基本的にどのアルツハイマー型認知症の人にも見られる症状である。

- ・失語
- ・失認
- ・失行
- ・記憶障害
- ・見当識障害
- ・理解・判断力の低下
- ・実行機能障害

中核症状：見当識障害



■見当識とは、現在の年月や時刻、自分がどこにいるかなど基本的な状況を把握することをいう。

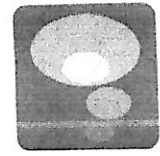
- ① 時間や季節感が薄れていく
- ② 進行すると、迷子や遠くに歩いて出て行こうとする
- ③ 人間関係の見当識はかなり進行してから

中核症状：理解・判断力低下



- ① 考えるスピードが遅くなる
- ② 二つ以上のことをうまく行えなくなる
- ③ いつもと違うことがあると混乱する
- ④ 観念的なことと現実的なことが結びつかない

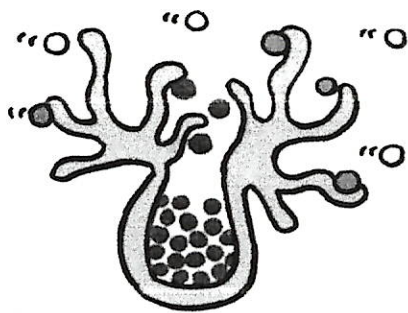
中核症状:実行機能障害



計画を立て按配することが出来ない

- 料理が出来なくなる
- 今までの業務が行えなくなる
- 会議についていけなくなる

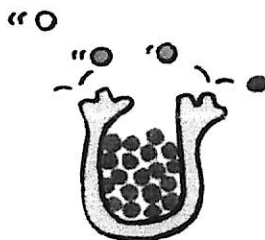
中核症状:記憶障害



若いとき



正常な老化
(覚えるのに手間がかかる)



認知症
(覚えられない)



進行すると
(覚えていたことを忘れる)

- 大切な情報
- 関心のある情報
- 無駄な情報

健康な高齢者の加齢に伴うもの忘れと認知症のもの忘れ

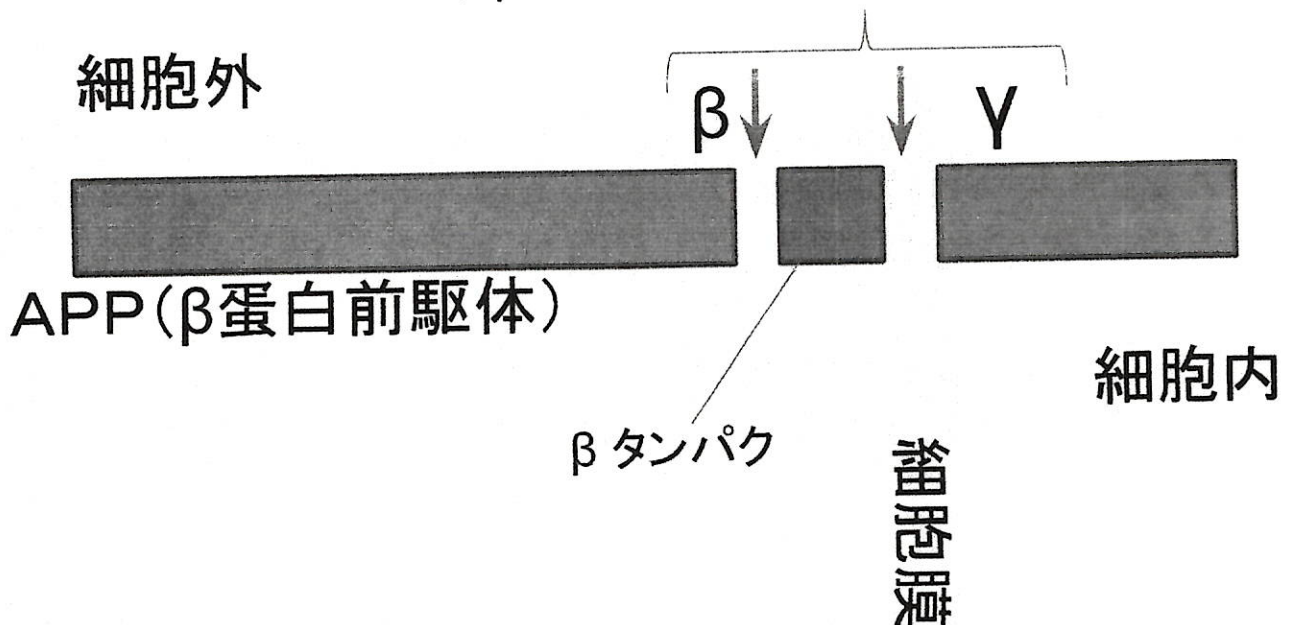
ふつうのもの忘れ	認知症のもの忘れ
体験の一部を忘れる	全体を忘れる
記憶障害のみがみられる	記憶障害に加えて判断の障害や実行機能障害がある
もの忘れを自覚している	もの忘れの自覚に乏しい
探し物も努力して見つけようとする	探し物も誰かが盗ったということがある
見当識障害はみられない	見当識障害がみられる
作話はみられない	しばしば作話がみられる
日常生活に支障はない	日常生活に支障をきたす
きわめて徐々にしか進行しない	進行性である

東京都高齢者施策推進室「痴呆が疑われたときに一かかりつけ医のための痴呆の手引き」1999より引用・改変

βタンパクの産生



B, γセクターゼという2種類の切断酵素

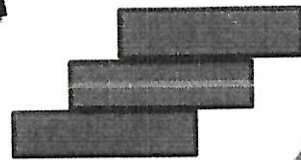


βタンパクの重合

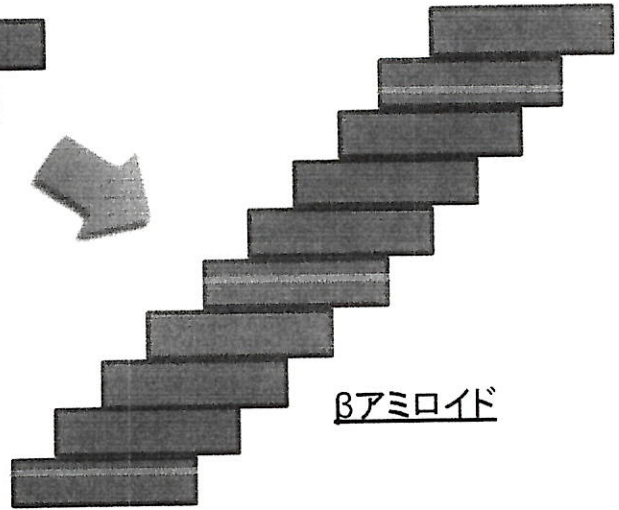


βタンパク同士がつながりあって(重合)オリゴマーになり、だんだんと大きな重合体(βアミロイド)に成長していく

βタンパク
モノマー



オリゴマー



βアミロイド

βタンパクの分子がいくつか重合したオリゴマーという構造物が、神経細胞に対する毒性を発揮

認知症の人と接するとき



- 自尊心を傷つけない
- 事実だけで説得しない
- 相手のペースにあわせる
- 相手が分かる言葉で簡潔に
- しぐさや表情を大切に

マイナスからプラスへ

マイナスなかわりかた	➔	プラスのかわりかた
誇りを傷つける		失敗はそうっと見て見ぬふり
急がせる		ゆったり
きりきりする		お茶でも一服
怒り顔		にっこり微笑んで
ひとりきりにする		そばにいて一緒に
手を出す		少し待つ
口を出す		黙って見守る
否定		否定せずに聞こう
説得		納得できるシナリオ
一度にたくさん		一度に一つ
何もすることがない		自分の出番、楽しみごとがある
刺激がない		五感や感情に働きかける工夫

認知症のサポーター

あなたなりの杖になること



皆さんが暮らす地域の中で
認知症の方々やそのご家族を
どのようにサポートできるでしょう
か。

